

令和6年度 ごみ処理基本計画評価シート（令和5年度実施分）

基本方針 施策	①市民に信頼される基盤施設をめざして 1. 安全安心で安定した効率的な処理体制の確保
------------	---

総合評価

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
B	B	B	A	B

評価 A：順調に進んでいる。

B：概ね順調。又は、概ね順調だが、一部取組みの見直しが必要。

C：課題が多く、取組みの見直しが必要。

取組みの内容・成果

- ・適切な業務の管理と継続的な改善を図ることを目的とした豊中市伊丹市クリーンランド内部評価委員会を運営し、ごみ焼却施設及び豊中伊丹スリーR・センターにおける内部モニタリング結果を公表した。
- ・安全衛生委員会（書面開催を含む）を年間13回開催し、労働災害ゼロ職場に向けた取組みを実施した。
- ・クリーンランドにおけるごみの総搬入量は、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響により、事業系のごみ搬入量が減少したことから、焼却ごみ搬入量が大きく減少した。また、増加していた家庭からのごみも令和3年度から減少へ転じたものの、当初の計画量と比べると依然として多い状況のため、今後の推移を注視するとともに、クリーンランドの見学者へごみ減量及び分別の啓発を行った。
- ・豊中市、伊丹市と連携してごみ搬入物検査を定期的実施することにより、産業廃棄物や分別が不十分なごみに対して搬入業者へ指導を強化するなど適正搬入に努めた。
- ・豊中市において令和5年10月から新たに充電式電池内蔵の小型家電類及び電池類の分別収集が開始されるにあたり、上半期に受入れに向けた準備を行った。
- ・豊中伊丹スリーR・センターにおける安全性、環境性、経済性及び日常点検・整備などに関するモニタリングを継続し、効率的で高品質な再資源化の向上に取り組んだ。また、火災に備えるため、プラスチック容器包装ライン周辺に消火栓を4ヵ所新設した。
- ・プラットホームゲート前での清掃の際、グリス注入口に頭部をぶつけ挫創した労働災害発生を受け、物理的にグリス注入口を覆うとともに、ヘルメット着用とすることにより、災害リスクの低減を図った。
- ・日々の運転状況が適切に維持されているか運転管理部門と連携を密にし情報共有を図り、施設の安定稼働に欠かせない定期補修工事の着実な履行に努めた。
- ・可燃ごみ搬入量は前年度から更に約4,100ト下回ったことから、搬入量予測値の下方修正など年間を通した運転計画の適宜見直しにより適正な焼却量を導き施設の安定稼働に繋がる焼却業務ができた。
- ・作業者が脱水助剤溶解槽に攪拌機据付の際、攪拌機とモーターベースの間に添えていた左手薬指先端が挟まれ剥離骨折したため、直ちに作業手順の見直し等対策を行った。
- ・ごみピット内の攪拌によるごみ質の均一化を図ることにより安定したごみ焼却並びに最大限発電設備の能力を発揮した発電量の確保に努めた。

課題・今後の方向性

- ・豊中市伊丹市クリーンランド内部評価委員会を運営し、適切な業務管理を図るとともに、一般廃棄物処理基本計画の進行管理を行う。
- ・安全衛生委員会を中心に労働災害ゼロ職場の達成に向けた取り組みを推進し、全職員の安全確保に努める。
- ・ごみ焼却施設においては、整備計画時に設定した計画量を上回るごみが搬入されていることから、余力を持って処理するため、引き続き豊中市、伊丹市と連携してごみの減量に取り組む。
- ・豊中伊丹スリーR・センターの破碎処理工程において、充電式電池やそれらを内蔵する小型家電製品などの混入が発火事象の主な要因となり、施設の損傷や処理計画への影響が懸念されていたため、令和5年10月から豊中市で実施された新たな分別後の発火事象の状況を検証していくとともに、引き続き豊中市、伊丹市と連携して拠点回収や分別などの周知を行う。
- ・豊中伊丹スリーR・センターでは、引き続き運営業務受託者と協議・調整を行うことにより、計画処理量の確保や高品質な再資源化、老朽化による修繕等を実施し、施設の安定稼働の維持を図る。
- ・ごみ処理施設使用料の改定から4年度目となるため、今後の使用料の検証についての検討を行う必要がある。
- ・引き続き、運転管理部門と連携を密にし情報共有を図り施設の安定稼働に努める。
- ・可燃ごみ搬入量の減少傾向を鑑み、実情に合致した焼却計画や発電計画の効率的かつ効果的な見直し、また豊中市・伊丹市の搬入受入れに支障の無いよう、ピット残量の調整ならびに総合的なごみ焼却施設運転計画の適宜見直しを行う。
- ・労働災害発生によりB判定とした。今後の再発防止の取り組みとして、危険予知訓練や作業前ミーティングの励行を行うとともに、事業場安全衛生活動において、研修等の実施により、安全・衛生に関する職員ひとり一人の意識向上を図り、労働災害0をめざす。
- ・今後も適正に施設の運転維持管理を継続することにより、市民に信頼される施設運営を目指していく。

施策評価	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
(1)ごみ減量の推進	A	A	A	A	A
(2)適正搬入の促進	A	A	A	A	A
(3)自律的な施設運営	A	A	A	A	A
(4)計画的な施設維持・整備	A	A	A	A	A
(5)最終処分場の安定的確保	A	A	A	A	A
(6)人材の育成	A	A	A	A	A
(7)職員の安全の確保	B	B	B	A	B

指標	単位	2028年度 目標値	目標値・実績値の推移				
			2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
安全衛生委員会の開催回数	回	12	12	12	12	12	12
			12	12	12	12	13
搬入物検査の年間実施回数	回	52	52	52	52	52	52
			45	30	32	36	43
受託者連絡会議の年間開催回数	回	12	12	12	12	12	12
			12	12	12	12	12
資格・免許取得	名	6	6	6	6	6	6
			8	15	23	25	30
安全衛生職員研修の年間受講回数	回	2	2	2	2	2	2
			2	2	2	2	2
労災発生件数	件	0	0	0	0	0	0
			3	1	1	0	2

上段は目標値、下段は実績値。

令和6年度 ごみ処理基本計画評価シート（令和5年度実施分）

基本方針 施策	①市民に信頼される基盤施設をめざして 2. 環境負荷低減と地球温暖化対策の推進
------------	--

総合評価

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
A	A	A	A	A

評価 A：順調に進んでいる。

B：概ね順調。又は、概ね順調だが、一部取組みの見直しが必要。

C：課題が多く、取組みの見直しが必要。

取組みの内容・成果

- ・地球温暖化防止対策に寄与するため、豊中市伊丹市クリーンランド地球温暖化対策実行計画を推進し、令和5年度の実績数値を公表にした。
- ・豊中伊丹スリーR・センターの資源化率は、平成24年度の稼働当初から、要求水準で定める50%以上を継続して維持できている。
- ・施設照明の全数3,000本を令和4年度から年間1,000本、3カ年計画でLED照明に変更することによりCO2排出量年間80 t（2年累計160 t）削減することができた。
- ・排ガス・排水については継続的に安定しており法による排出基準値を遵守することができた。
- ・施設の安定稼働により焼却量1トン当たりの発電量についても前年度同様平均600kwh/トンを超えており、安定した高効率発電が維持されている。

課題・今後の方向性

- ・ 策定した地球温暖化対策実行計画に基づき、着実に取り組みを進める。
- ・ 豊中伊丹スリーR・センターの資源化率については、手選別による品質確保に努めており、令和5年度は目標を達成した。令和6年度からも引き続きリサイクルによる環境負荷低減と温暖化対策の推進を目指していく。
- ・ 施設照明全数LED化計画3ヶ年目においても1,000本交換することで環境負荷低減を図る。
- ・ 排ガス・排水の法による排出基準値遵守も含め適正な施設の維持管理に努める。
- ・ 高効率発電の維持については、ごみ搬入量と焼却炉の稼働状況により大きく影響することから、設備機器の適正な維持管理はもとより、ごみ搬入量の増減にも柔軟な対応ができるよう、ごみピット残量の調整ならびに運転計画の適宜見直しを実施する。

施策評価	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
(1)公害防止に向けた取り組み	A	A	A	A	A
(2)環境負荷低減に向けた取り組み	A	A	A	A	A

指標	単位	2028年度 目標値	目標値・実績値の推移				
			2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
豊中伊丹スリーR・センターの資源化率	%	58	58	58	58	58	58
			60.67	60.80	63.23	63.22	60.90
ごみ処理量当たりの発電電力量	kwh/t	590	590	590	590	590	590
			606.3	620.2	617.2	610.56	607.30

上段は目標値、下段は実績値。

令和6年度 ごみ処理基本計画評価シート（令和5年度実施分）

基本方針 施策	①市民に信頼される基盤施設をめざして 3. 危機管理体制の強化
------------	------------------------------------

総合評価

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
B	B	B	B	B

評価 A：順調に進んでいる。

B：概ね順調。又は、概ね順調だが、一部取組みの見直しが必要。

C：課題が多く、取組みの見直しが必要。

取組みの内容・成果

- ・豊中市伊丹市クリーンランド危機管理対策会議事務局として会議を開催し、適宜「災害廃棄物処理マニュアル」の見直しを行った。
- ・新たな取り組みとして9月の「防災の日」に合わせて、大規模地震を想定したタイムラインを用いた防災訓練を各所属において実施し、12月には、全職員参加のもと総合防災訓練を実施した。
- ・ごみ焼却施設の設計規模やごみの搬入実績に基づき、災害廃棄物を受け入れられる余力の確保について豊中市、伊丹市と情報共有し、確認を図った。
- ・ごみピット内火災対策として現状排煙装置が備わっていないことから、2系統ある脱臭装置の使用済み活性炭塔を排煙機の代替とすることで排煙装置設置費用が不要となり経費削減に努めた。
- ・充電式電池が原因とみられる火災が多発していることから、破碎選別残渣搬送コンベヤ火災を想定した消火訓練を実施した。あわせて空気呼吸器の装着訓練も実施した。
- ・クリーンランドの心臓部である電気関連設備を水害から守るため、止水板取扱い研修を実施するとともに、止水板設置マニュアルの整備を行いました。

課題・今後の方向性

- ・適宜、豊中市伊丹市クリーンランド危機管理対策会議を開催する。
- ・総合防災訓練とともに、タイムラインを用いた防災訓練を継続して実施する。
- ・12月の総合防災訓練では、シナリオを用いない新たな形で実施したが、備品の一部に不足が生じたり、職員に混乱が生じる場面も見られたことから、実施方法等について改善に努める。
- ・災害等発生時における業務継続計画に基づく受け入れ態勢を確保するとともに、搬入可能な災害廃棄物や処理体制について豊中市、伊丹市と協議を実施する。
- ・ごみピット火災による施設の操業停止を回避するため、初期消火に必要な不可欠な設備である、赤外線カメラやITVカメラ、自動放水銃の適正な整備を行うとともに、排煙対策についても更なる検討を進める。
- ・火災や災害発生時、速やかに対応できるよう、日頃より訓練を実施する。

施策評価	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
(1)危機事態への実践力の向上	A	A	A	A	A
(2)災害廃棄物対策	B	B	B	B	B

指標	単位	2028年度 目標値	目標値・実績値の推移				
			2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
危機管理訓練・研修	回	1回以上	1	1	1	1	1
			1	2	3	3	3
危機管理対応マニュアル 見直し	件	1	1	1	1	1	1
			1	1	1	1	1

上段は目標値、下段は実績値。

令和6年度 ごみ処理基本計画評価シート（令和5年度実施分）

基本方針 施策	②市民に愛され親しまれる学びや交流の場をめざして 1. 環境学習・啓発の推進
------------	---

総合評価

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
B	B	B	B	B

評価 A：順調に進んでいる。

B：概ね順調。又は、概ね順調だが、一部取組みの見直しが必要。

C：課題が多く、取組みの見直しが必要。

取組みの内容・成果

- ・新型コロナの5類への移行を受け、安全に配慮しながら施設見学や市民講座の開催、豊中市、伊丹市との協働による出前講座の実施などの環境学習を通じて、ごみの減量や分別をはじめとする3Rに対する理解度向上を目指した啓発を行った。順次、コロナ禍前の定員数に戻っていった結果、来場者数が元の水準に戻りつつある。
- ・クリーンランドひろばを活用し、環境学習に係るメニューを提供する「ひろばイベント」に加え、ステージでの催しやリユースマーケット等も開催する「ジョイントひろば」を5月・10月の2回実施した。
- ・社会的課題となっているSDG'Sをはじめとする環境問題等に関連した講座を企画・実施するなど、情報発信に努めた。また、剪定枝チップ化事業の認識度向上をめざし、子供向けカードの配布や動画による周知を行った。
- ・施設に来られない方にも情報をお伝えするため、施設見学や市民講座の動画配信などのデジタル化を進めた。

課題・今後の方向性

- ・ひろばの有効活用の観点から、ひろばと豊中伊丹スリーR・センター及びごみ焼却施設を合せた一体的な環境学習メニューを企画・実施することにより、更なる来場者の増員を図る。
- ・クリーンランドでの発火件数の増加を受け令和5年度下期から設置した発火防止啓発コーナーの一層の活用を通じて、両市民へ拠点回収や分別の周知、豊中市民には定期収集の開始の案内等の啓発活動を強化する。
- ・豊中市伊丹市クリーンランド第3次一般廃棄物処理基本計画の計画期間は2019年度～2028年度であり、次年度からは、施設利用者へのアンケートにおいて、広く環境配慮への理解の高まりを確認する方向で、指標等を見直す。
- ・引き続き、SDG'S等の環境に関連した講座の企画・開催や動画の配信など、デジタル化に取り組む。

施策評価	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
(1)両市との協働による啓発	B	B	B	B	A
(2)環境学習の充実	B	B	B	B	B

指標	単位	2028年度 目標値	目標値・実績値の推移				
			2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
市民講座の開催回数	回	12	12	12	12	12	12
			11	10	9	12	12
施設見学者数	人	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000
			8,923	4285	6002	7686	8360
来場者アンケートによる チップ化事業の認知度	%	50	20.00	22.00	24.00	26.00	29.00
			18.00	15.7	14.4	15.9	15.9

上段は目標値、下段は実績値。

令和6年度 ごみ処理基本計画評価シート（令和5年度実施分）

基本方針 施策	②市民に愛され親しまれる学びや交流の場をめざして 2. 市民に開かれた場や機会の創出
------------	---

総合評価

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
A	A	A	A	A

評価 A：順調に進んでいる。

B：概ね順調。又は、概ね順調だが、一部取組みの見直しが必要。

C：課題が多く、取組みの見直しが必要。

取組みの内容・成果

- ・クリーンランドひろばの令和5年度来園者数は、約3万7千人となっており、市民の憩いの場として定着している。
- ・遊具の定期点検や芝生の維持管理を行い、クリーンランドひろば全体の適正な管理に努めた。
- ・地元地域住民との良好な関係づくりのため、クリーンランド事業に関する情報提供を適宜行った。
- ・コロナ禍で中止されていた「とよっぴーフェスタ、伊丹市シルバーフェスティバル、豊中市環境展」へ出展するとともに、ごみ焼却施設の展望フロア開放デーや施設見学会、市民講座、ひろばイベント、年2回開催の「ジョイントひろば」などを通じて、市民との交流を図った。

課題・今後の方向性

【総務課】

- ・引き続き、適宜、適切な情報提供を通じて、地元地域住民との良好な関係づくりを継続する。
- ・再資源・搬入課との連携のもと環境学習にも資するイベント（ジョイントひろば）を継続開催し、クリーンランドひろばのPRに努める。

【再資源搬入課】

- ・引き続き、クリーンランドひろばで豊中伊丹環境フォーラムによる「ひろばイベント」を開催するとともに、豊中伊丹スリーR・センターとごみ焼却施設を一体的に活用する幅広い環境学習について、事業内容の検討を進める。
- ・昨年度、新たに開始した「ジョイントひろば」について、その内容や周知をより充実させていく。

施策評価	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
(1)市民との信頼関係の構築	A	A	A	A	A
(2)緑あふれる憩いと交流の場づくり	A	A	A	A	A

指標	単位	2028年度 目標値	目標値・実績値の推移				
			2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
地元連絡会議開催回数	回	1	1	1	1	1	1
			2	1	1	1	1
展望フロア開放デーの開催回数	回	12	12	12	12	12	12
			11	9	10	12	12
クリーンランドフェスティバルの来場者数	人	1,300	1,300	1,300	1,300		
			1,285	中止	中止		
ジョイントひろば (年2回)	人	(第1回)				1,300	1,300
		1,300				1,980	1883
		(第2回)				1,300	1,300
		1,300				雨天中止	1432

※2020年度、2021年度は新型コロナウイルス感染症防止対策の為クリーンランドフェスティバルは中止。
 ※2022年度よりクリーンランドフェスティバルからジョイントひろばに変更。